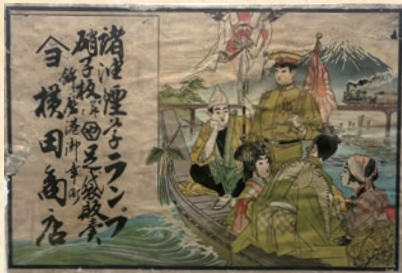


横田石油株式会社

三信条「誠意・正直・責任」

当社ガソリンスタンドでは給油、洗車、安全点検、車検、及びカーリース、保険などカーケア全般を業務とし、重油からLPガスまで広く石油製品を販売しています。また、潤滑油部門においては更油作業など技術サービスも行っています。これからも地域社会の発展に貢献できる企業を目指します。

商号	横田石油株式会社
本社所在地	〒672-8057 姫路市飾磨区恵美酒147
創業年	1878年(明治11年)1月
設立年	1953年(昭和28年)3月
資本金	4,500万円
従業員数	150名(グループ総数)
事業内容	石油製品類販売、高圧ガスの販売、自動車の斡旋販売及び修理並びに部品の販売、オートリース、損害保険・生命保険代理店、化学工業薬品の販売、船舶運送代理店



大正初期の石版画のチラシ広告



昭和4年 飾磨給油所



昭和42年 モーターゼーションで近代化していくGS(広畑西給油所)

ランプから電灯へ

先祖は姫路藩に仕え、水軍の大船頭を務めていました。明治維新で藩が消滅、水軍もなくなりました。明治11年、横田久左衛門度平の長男亡き後、次男・市三郎が神戸の貿易商の奉公から戻り飾磨で油屋を開業。菜種油や醤油を荷車に積み近郊へ行商。時計がわりと評されるほど毎日正確な時間に売り歩く市三郎の商い、それが横田石油の原点でした。

明治22年、ランプ灯油の販売を開始。明治40年頃にはランプは電灯へと変わっていききました。同業他社が次々と廃業する厳しい時代にあっても離島の家島に電灯がつくまではとランプ灯油を運び続けました。大正7年、二代目一市が家業継承。大正10年頃から織物工場などが操業、船が帆船から機械船へと変わり、石油の需要が拡大していききました。

戦時下での責任

昭和4年、飾磨に給油所を開設。昭和9年、飾磨港近くに本社を移転。

戦争突入後、経済統制で石油の自由販売はできなくなりました。一市は強い使命感から商売抜きで石油の割当て切符を求め東奔西走。戦時下であっても日本製鐵広畑製鉄所(現日本製鐵瀬戸内製鉄所広畑地区)などへ納入を続け、機械をストップさせることなく危機を乗り切り、その時代の社会的責任を全うしました。

昭和28年、社名を「横田石油株式会社」に改名。戦後、モータリゼーションの急速な波はガソリン需要を飛躍的に伸ばしました。

次の時代に

今、エネルギーはカーボンニュートラルの流れで石油から新しいものへと変わろうとしています。ランプから電灯へと時代が変化した時、まだランプ灯油を必要とする人々へ届け続けたように、新しいエネルギーが確立するまで石油を届けたいと考えます。

CO₂と水素から製造する「液体合成燃料」商用化に向けて、官民あげてのプロジェクトも始動しました。どのようなエネルギーになろうとも柔軟に対応できる企業であり続けます。

全社員、三信条の「誠意をもって正直に最後まで責任をもつ」を大切に、次の時代に備えていきます。



現在の飾磨サービスステーション

未来が見えた!!
カーボンニュートラル・環境対策は
液体合成燃料で。

【合成燃料ってなに?】
石油業界が実用化を目指している「合成燃料」は、原料に再生可能エネルギー由来の「CO₂フリー-水素」と「CO₂」を使用して製造するカーボンニュートラル時代にも適した液体燃料です。
既存のエンジン搭載車(HV・PHVを含む)はもちろんのこと、燃料供給インフラを将来的にも有効活用し続けることができます。(詳しくはQRコード参照)

全国石油商業組合連合会

液体合成燃料のPRポスター
(全国石油商業組合連合会)

